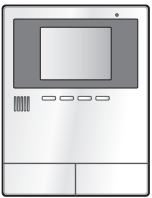


施工説明書

増設モニター 電源コード式

品番 VL-V632K



接続するテレビドアホンの
施工説明書とあわせて、
よくお読みください。

施工をされる方へ

- 施工説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に施工してください。特に「安全上のご注意」は、**施工前に必ずお読みください**。施工説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
- 電源配線工事には、電気工事士の資格が必要です。
- 電源プラグキャップおよび包装材料は、商品を取り出したあと適切に処理をしてください。
- 施工終了後は、必ず本書をお客様にお渡しください。
- 本書では、増設モニターを「本機」、テレビドアホンのモニター親機や玄関子機はそれぞれ「ドアホン親機」「ドアホン」と表記しています。

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

警告

火災・感電・漏電などを防ぐために

禁止

- 分解・修理・改造しない
➔ 修理は販売店にご相談ください。
- 雷のときは配線工事をしない
- 指定以外の機器は接続しない
- 指定以外の端子に電源(AC100 V)を接続しない
- コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、AC100 V以外での使用はしない
(たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります)

- 電源(AC100 V)を入れたまま配線工事をしない
- 水や薬品のかかる場所、湿気やほこりの多いところに設置しない
- 電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない
 - ・ 傷つける、加工する、熱器具に近づける、コードに過度なストレスを加える(無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねるなど)

(傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります)
➔ 修理は販売店にご相談ください。

■ AC100 Vの電源直結工事は資格を持つ者が行う
➔ 電源配線工事には電気工事士の資格が必要です。販売店へご相談ください。

■ チャイム線など既設の配線を利用する場合は、AC100 Vが通電されていないことを確認する
➔ 販売店へご相談ください。

パナソニック システムネットワークス株式会社

〒812-8531 福岡市博多区美野島四丁目 1 番 62 号

© Panasonic System Networks Co., Ltd. 2015

安全上のご注意

必ずお守りください

注意

感電などを防ぐために

禁止

- 土中埋設配線する場合は、土中での接続はしない
(絶縁劣化により、感電の原因になることがあります)

■ 土中埋設配線する場合は、保護管を使用する

■ 屋外配線する場合は、雷サージ保護のため、避雷器を取り付けるか、保護管を使用して埋設配線する

けがなどを防ぐために

落下しないようにしっかりと取り付ける
(落下により、破損やけがの原因になることがあります)
➔ 石こうボード、ALC(軽量気泡コンクリート)、コンクリートブロック、厚さ18 mm以下のベニヤ板など、強度の弱い壁は避け、指定の方法で取り付けてください。

付属品の確認

ご確認のうえ、不備な点がございましたら、お買い上げの販売店へお申し付けください。

□ 壁掛け金具(1個)

● 本機の背面にあります。

□ 壁掛け用木ねじ(2個)
(4 mm × 16 mm)

□ 壁掛け用小ねじ(2個)
(4 mm × 25 mm)

● 壁の材質によって付属のねじが使えない場合は、材質に合わせて市販のアンカーなどをご使用ください。

設置上のご願い

設置場所について

こんなところには設置しない (故障や動作障害などの原因になります)

- 振動、衝撃のあるところ
- 反響の多いところ
- 硫化水素、アンモニア、硫黄、ほこり、有毒ガスなどの発生するところ
- 火気・熱器具・冷暖房機の近くや直射日光の当たるところ(誤動作・変形・故障の原因)
- 温度変化が激しいところ(結露による誤動作の原因)
- テレビ、ラジオ、パソコンなどのOA機器、エアコンなどの近く

その他

- 本体の上下左右に20 cm以上の空間をとってください。(誤動作や通話の途切れ防止)
- 壁を深くくぼませたスペースへの設置はできるだけ避けてください。(誤動作や通話の途切れ防止)
- 本体を埋め込まないでください。
- 本機は右図のように、ドアホンやドアホン親機からそれぞれ約5 m以上離して設置してください。(ハウリングなどの通話障害や通話の途切れ防止)
- 強電界地域や電波を発する無線局周辺では、映像や音声にノイズなどが入ることがあります。

工事について

- 電源について：必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続する。
(1) 電源コンセントの近くに設置し、遮断装置(電源プラグ)に容易に手が届くこと。
(2) 3 mm以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。
ブレーカーは保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。
- 既存または新設のドアホン配線などを接続する場合は、接続工事の前に、必ず大地アースと配線との絶縁抵抗、配線2線間の絶縁抵抗、および配線の線路抵抗値(直流ループ抵抗)を測定のうえ、下記の抵抗値と照合し、異常のないことを確認してから接続工事を行う。

絶縁抵抗値	DC500 V にて 1 MΩ 以上
線路抵抗値	直流抵抗計にてループ抵抗 10 Ω 以内(配線距離 100 m以内で)

- 本機は電気設備技術基準による施工を行う。
 - ・使用する埋込みボックスに、堅牢な隔壁(電源線とその他の信号配線材の間)を設ける。
 - ・金属ボックスを使用する場合はD種接地を行う。
 - ・配線材はAC600 V以上の絶縁電線を使用する。
- ノイズ障害が考えられる場合は、金属配管の中に接続線を通して工事を行う。(金属管は必ず大地アースをすること)

設置上のごお願い(つづき)

工事について(つづき)

- AC100 V以上の電力線(電灯線)とは1 m以上離して配線工事するか、別々の金属管による配管工事を行う。(映像の乱れや通話ノイズなどの防止)
- 本機の信号線接続端子は、速結端子になっているため以下の方法での結線を行う。(接続できる線種などについては「線種と配線距離について」)

＜本機背面＞

端子 ボタン

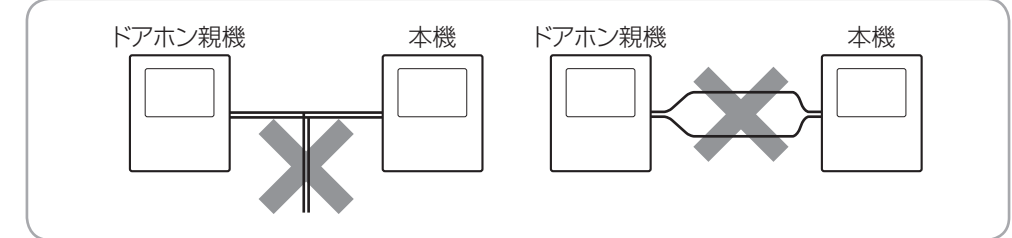
配線材を挿入する場合

- ・配線材の被ふくを9 mmむく。
- ・ドライバーの先などでボタンを押しながら配線材を確実に端子に挿入する。

配線材を抜く場合

- ・ドライバーの先などでボタンを押しながら配線材を引き抜く。

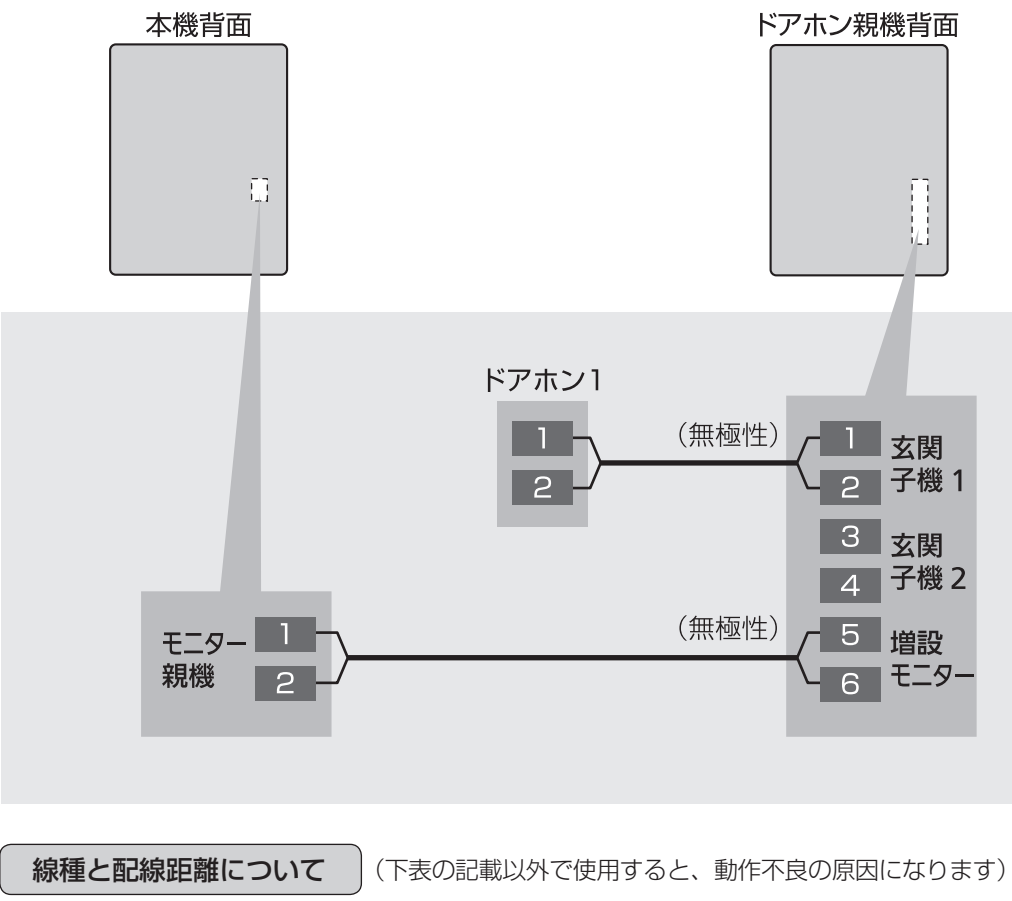
- ドアホン親機と本機間に不要な配線材があるときは、取り除くか新たに配線してください。また、下記のように配線材を分岐したり、極端にばらしたりしないでください。正常に動作しないことがあります。



- 誤配線、ショートなどが無いことを確認後、ドアホン親機と本機の電源を入れる。

配線系統図

よくご確認のうえ、正しく配線してください。

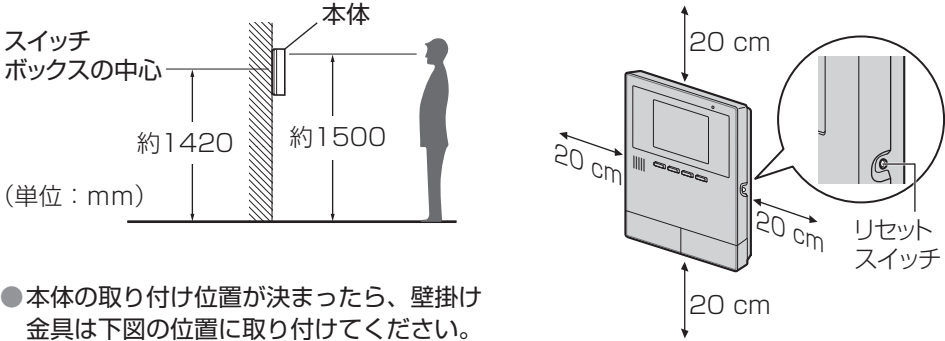


線種と配線距離について (下表の記載以外で使用すると、動作不良の原因になります)		
配線区間	線 種	配線距離(総延長)
ドアホン ～ ドアホン親機 ～ 本機	インターホン用平行 2 線式ケーブル 単芯線(mm)：φ0.65～φ0.9	100 m以内

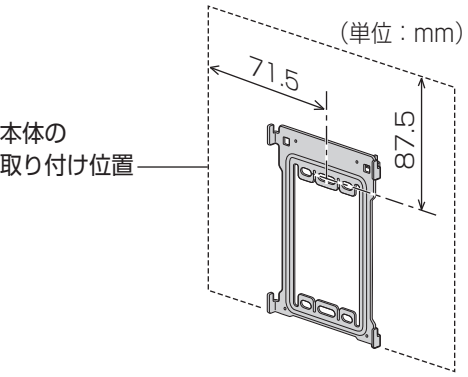
1 本機の取り付け位置を決める

本体と壁掛け金具の取り付け位置

- 本体は、よくご利用になる方の目の高さに画面の中心がくるよう取り付けてください。（下図は、画面の中心を床から約1500 mmの高さにするときの例です。）
- 本体の上下左右には、下記のための空間を20 cm以上とってください。
 - ・誤動作や通話の途切れ防止
 - ・リセットスイッチの操作



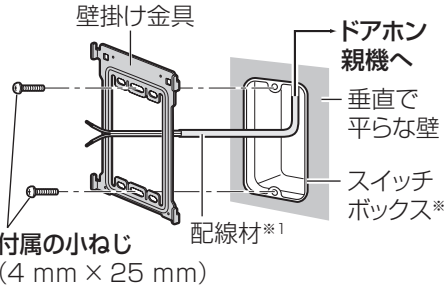
- 本体の取り付け位置が決まったら、壁掛け金具は下図の位置に取り付けてください。



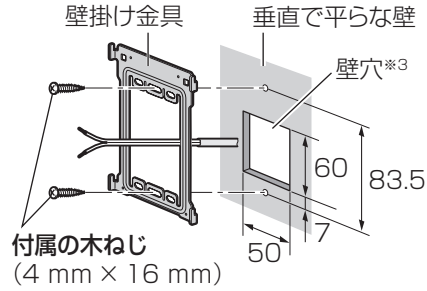
2 本機を取り付ける

1 付属の壁掛け金具を壁面に確実に取り付ける

■ スイッチボックスの場合



■ 壁の場合



※1 〈既設の配線を使用する場合〉

- 壁の中から出ている配線材が「3本線またはそれ以上」「直径1.6 mm以上の単線」「断面積1 mm²以上のより線」のときは、電源線（AC100 V など）の可能性があります。工事は販売店にご相談ください。（電気工事士の資格がないと、電源工事はできません）
- 電圧がかかっている配線材を本機に接続すると、機器が壊れます。

※2 JIS 1個用スイッチボックス

電源線とその他の信号配線材などが混在する場合は、絶縁セパレーターを取り付けてください。

※3 スイッチボックスを使用せずに壁の中から配線する場合に、壁穴を開けてください。

■ パネル壁(石こうボード)の場合

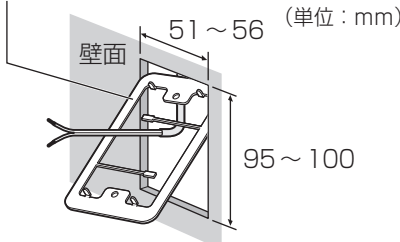
壁に下図のように穴を開け、脱落を防止するため、右記のはさみ金具を使って取り付けてください。

はさみ金具：パナソニック（株）製

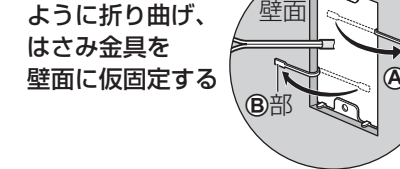
品 番	対 象 壁
WN3996020 (20 個入り) *	9 mm～30 mm厚の 石こうボード

※単品でのお取り扱いについては、販売店にお問い合わせください。

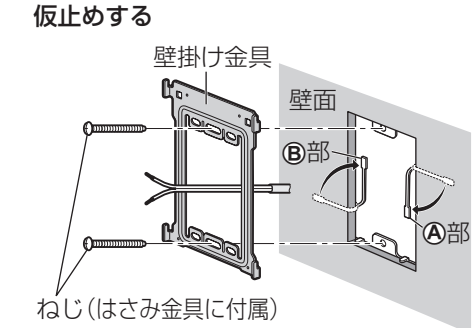
1 はさみ金具を壁面の裏側に入れる



2 ①部・②部を図のように折り曲げ、はさみ金具を壁面に仮固定する



3 壁掛け金具とはさみ金具を、ねじで仮止めする

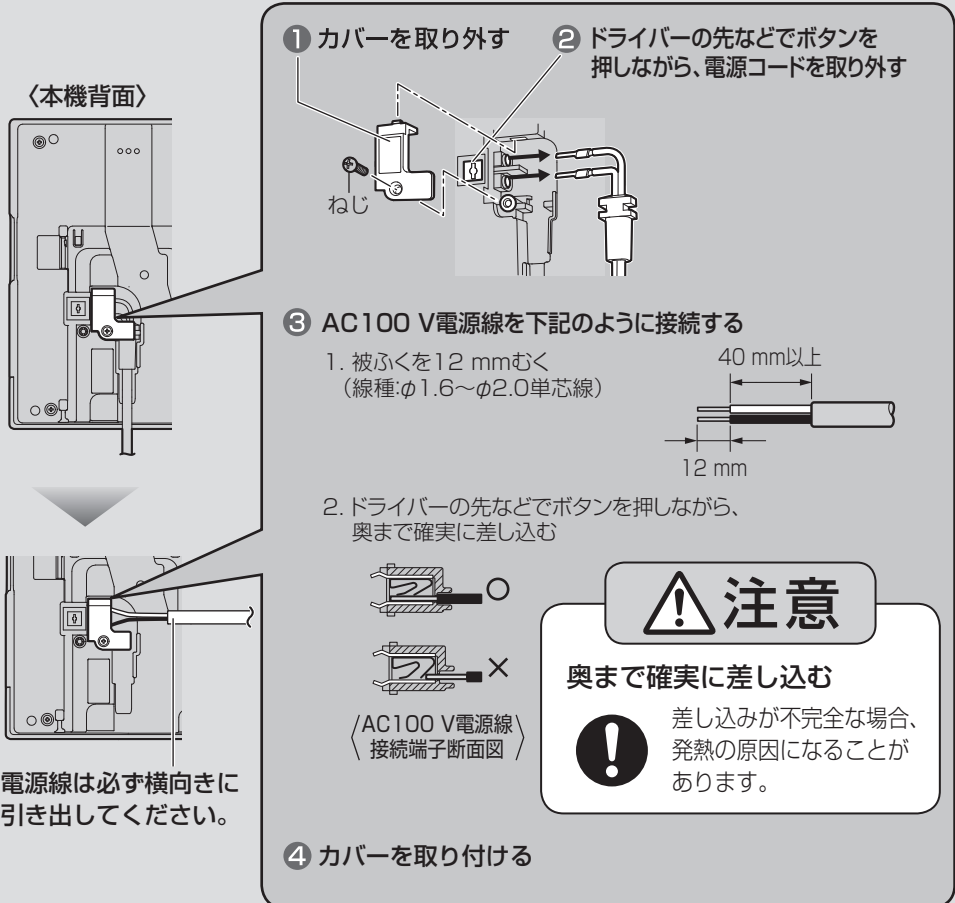


4 ①部・②部を壁端面まで戻し、ねじを締めて固定する

- ①部・②部を、壁掛け金具と壁面に挟み込まないようにしてください。

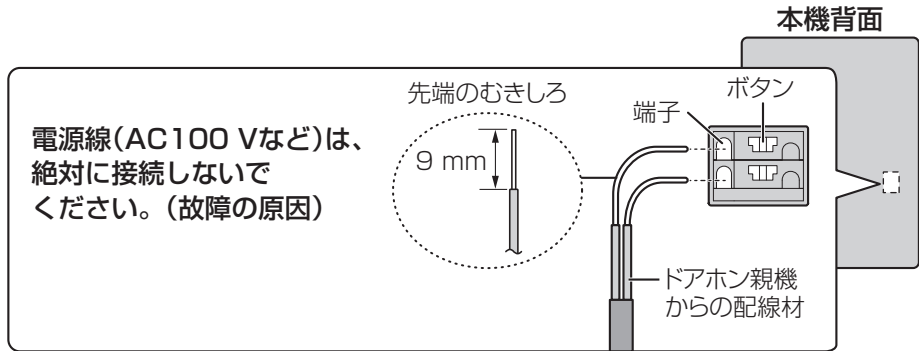
AC100 V電源線を直結する場合のみ
（電気工事士の資格がない方は、絶対に作業しないでください）

2 電源コードを取り外し、AC100 V電源線を接続する



3 配線材を接続する

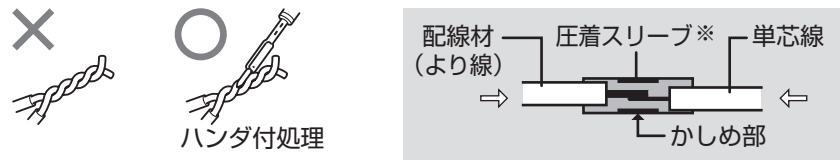
- 配線系統図（裏面）に従って正しく接続してください。
- 配線材は、各端子の横にあるボタンをドライバーの先などで押しながら抜き差ししてください。



配線材の線種が「より線」の場合

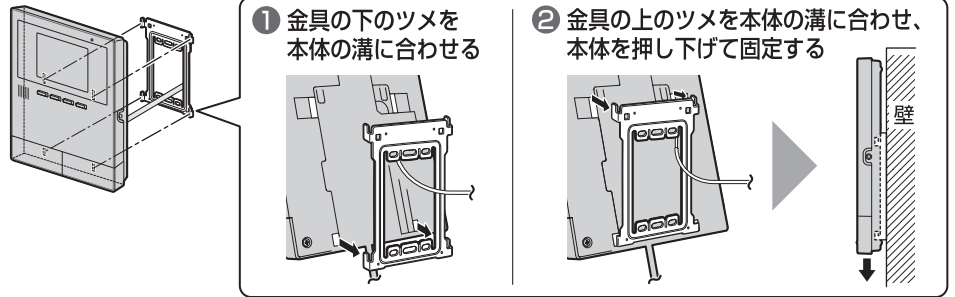
● 単芯線と結線して使用する

結線部をハンダ付処理してテーピングで絶縁するか、市販の単芯線（50 mm以上）と圧着スリーブで圧着処理を行ってください。（結線部をよじっただけでは、接触不良になるおそれがあります）



※手順4で、圧着スリーブを壁掛け金具に挟み込まないように注意してください。

4 本機を取り付ける



5 「電源プラグで使用する場合のみ」

電源プラグのキャップを外して、コンセント（AC100 V）に差し込む

- 落雷による機器の故障を防止するために、雷サージ防止付きのコンセント（市販品）に差し込むことをお勧めします。

本機をテレビドアホンのVL-SV21/SV26/SV35/
SV36/SV37/SV50シリーズに接続したとき

取り付け・接続が終わったら、ドアホン親機側で本機の接続設定が必要です。（設定が完了しないと本機が使用できません）

1 本機とドアホン親機の両方の電源が入っていることを確認する

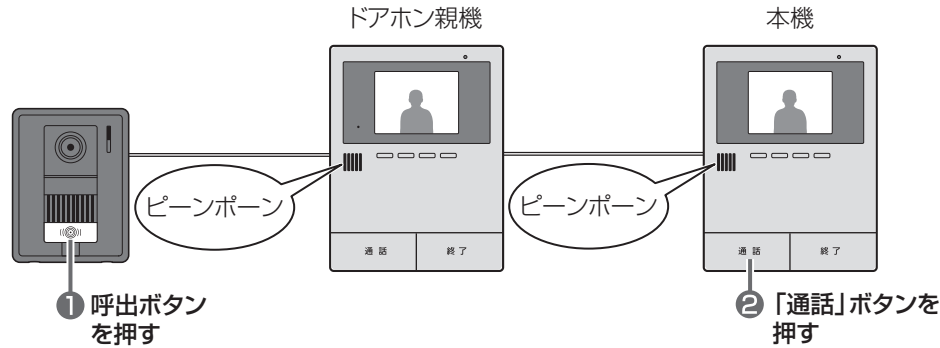
2 ドアホン親機の機能設定で、「接続機器の設定」の項目内にある「増設モニター」の設定を「あり」に変更する

- 設定方法の詳細は、ご使用のテレビドアホンの取扱説明書をお読みください。

3 正しく動作するか確認する

接続設定後、下記の手順で動作を確認してください。

- 1 ドアホンの呼出ボタンを押し、ドアホン親機と本機の両方で呼出音が鳴り、映像が映ることを確認する
- 2 本機の「通話」ボタンを押し、ドアホンと通話できることを確認する
 - 確認が終わったら、本機の「終了」ボタンを押す



本機やドアホン親機が動作しないとき

正しく配線されていない可能性があります。次のことを確認してください。

- ドアホン側、ドアホン親機側、本機側の端子に、それぞれ配線材が確実に接続されていますか？
- 正しく接続したのにドアホン親機や本機が鳴らない場合、壁内での配線に異常がある可能性があります。下記の手順で、確認してください。

- ① いったんドアホンと本機を外してドアホン親機の近くに持っていく
 - ドアホン親機は正しく動作し、本機だけが動作しない場合は、本機だけを外してドアホン親機の近くに持っていく
- ② 短い配線材などを使って右図のように直接つなぐ
- ③ 再度、動作を確認する
 - ➡ 正常に動作すれば、壁内の配線に問題があります。配線を確認してください。

